

藤友



2017 夏号

No. 403



取締役会長 高 藤 昌 和

求心力と遠心力

求心力とは、円の中心に向って動く力であり、遠心力とは求心力の作用として常に外側へ飛び出そうとする力です。目に見えないけれども、すべてのものに作用します。政治でも経済でも、文化芸術、あらゆるものに大きな影響力となります。

このエネルギーは、試練や困難に当たった時にあらわれます。国家や企業、家族でも試練に遭遇した時に、蜘蛛の子を散らすようにバラバラになるのか？逆に凝固剤の様に固まって対処するのか？大きな違いとなります。

これまで多くの組織の団体や会合に参加しましたが、会に勢いがあり発展する時や、何か萎えて力がなくなり衰退する時に、直面することが多くありました。

その原因にはいろいろと理由がありますが、そのひとつの要素に「リーダーの素質や人格」があります。

その組織が「何をするか？」より、「誰がするか？」ということです。

相田みつをさんの詩の中に「あの人、あの人」というのがあります。あの方は、「いつ会ってもさわやかでいい、ただ顔を見ていだけで気持ちがいい、そういう人がいる」「あの方は、顔を見ただけでうんざりする、なるべくなら会いたくない、そういう人もいる」「あの方の名を聞いただけで、懐しさがこみ上げて、胸がほのぼのと暖かくなる。そういう人もいる」「あの方の名を聞いただけで、鳥肌立って寒気がする。そういう人もいる」「あの方が出るなら、私も出る。あの方がゆくんじゃ、わたしはゆかない」あの人、あの人。ところでわたし自身はどちらのあの人か？



安全週間社長メッセージ

皆さんご安全に

「組織で進める安全管理 みんなで取り組む 安全活動 未来につなげよう安全文化」のスローガンのもと、今年も第90回を迎える安全週間が始まりました。

建設業における労働災害は、関係者の方々の長年の努力により減少を続け、平成28年は、死亡者数294人と、300人を割る事となり、休業4日以上 の傷病災害も15,058人と過去最少を記録致しました。

しかしながら、東京オリンピックをはじめとする工事の拡大が見込まれ、工事量の増加とともに労働災害の増加が懸念されます。

死亡災害のなかで高い割合を占める「墜落・転落災害」、「建設機械クレーン等の災害」、「倒壊・崩壊災害」の三大災害防止対策を徹底し、またこれから多発すると思われる熱中症の防止対策を積極的に行いましょう。

この安全週間を機に一層の労働災害防止に努めましょう。

代表取締役 高藤元太郎



本社安全大会

平成29年度の安全大会を7月6日(木)に門司体育館で、社員・協力会の会員会社はじめ、現在施工中の現場に携わっている協力会社の皆さん合わせて96名が参加し開催しました。

安全表彰を行った後の記念講話は、北九州中央社会保険労務士法人代表 江口勝彦様に「建設業における社会保険と今後の行方」と題して、講話をいただきました。昨今の業法改正での社会保険との関わり合いをととても分かりやすく解説頂き、参加者は熱心に聴講していました。

最後に社員、協力会会員の代表による安全宣言で、参加者一同無事故無災害を誓い、シュプレヒコールで閉会しました。



平成29年度 安全表彰受賞者

無災害現場

三島光産本社ビル新築工事ほか1004件工事

高藤建設株式会社の部

優良賞 建設部 平湯 信志



努力賞 同 小川 亮二
同 仲 信二

高藤建設安全衛生協力会の部

社長賞 杉山鉄筋工業(有) 杉山 和章様

協力会 (株)ミロク企画 中山 誠 授様

会長賞 鹿島道路(株) 北郷 道明様

(株)北清工業 松尾 吉次様



大阪支店安全大会

大阪支店では6月28日(水)に協力会社15社21名、社員8名の参加で、まず都島神社にて安全祈願を行い、場所を大阪リバーサイドホテルへ移し、安全大会を開催しました。

安全研修では、今年大阪で起きた玉掛作業中の災害事例の概要、低所からの墜落・転落災害防止の小冊子を配布し事故防止についての説明がありました。

中でも2m未満の低所からの災害が半数を占めているという現状を知り、大小に関わらず全ての作業に対する安全への意識向上に繋がったと思います。



安全表彰においては支店長賞に建和産業㈱様、支部長賞に大場鉄工建設㈱大場様、平成28年度無災害現場の表彰が行われました。また、今回受賞された大場様に現場での災害をテーマとして体験談を話して頂き、身近で起こったヒヤリ・ハットの内容という事で参加者の皆様は熱心に聞き入っていました。最後に安全宣言を行い、参加者一同無事故無災害の継続を誓い閉会しました。

【大阪支店 森田】

福岡支店安全大会

平成29年度安全大会を6月23日(金)に櫛田神社にて安全祈願を行い、「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」のスローガンのもと支店会議室で協力会社29社35名、社員11名 合計46名参加で開催致しました。

安全表彰では社員の優秀賞は秋吉幸二さん、支店長賞は㈲宮内組様、支部長賞に協力会社6社6名の個人表彰を行いました。

記念講話は福岡県人づくり・県民生活部生活安全課から派遣された飲酒運転撲滅アドバイザーに、飲酒運転撲滅と交通安全のテーマで講話して頂きました。



今回は通勤時の事故防止を考えてみました、たとえば前夜の深酒で早朝は酒気帯び状態での運転の可能性も有ります。飲酒事故の現状と悲惨さを講話より正しい知識を得たことで、この大会を通して飲酒運転撲滅に努めます。

安全週間を迎え、改めて協力会社の皆様との一体感を持って無事故無災害の継続を誓い決意を新たにしました。

【福岡支店 中武】



老人ホーム ぬまみどり

発注者 社会医療法人 北九州病院 様
 設計監理 株式会社 内藤建築事務所 様
 工期 平成28年4月12日～平成29年5月8日
 規模 RC造5階建 延床面積3,979.08㎡
 工事場所 北九州市



《完成して一言》

介護付有料老人ホームを建設しました。外観、内観とも明るく落ち着いた雰囲気、所々にアクセントを施したものとなっています。特にエントランスホールは大きな窓からやさしい光が差し込むゆったりとした空間となっております。また、その他の設備内容もこれまでの利用者の声を反映し、改善されたものとなっています。



【建設部 和田】

もち吉 企業内保育所

▽ 発注者 株式会社 もち吉 様
 ▽ 設計監理 高藤建設(株)一級建築士事務所
 ▽ 工期 平成28年12月15日～平成29年3月15日
 ▽ 規模 S造平屋建 延床面積 229.68㎡
 ▽ 工事場所 福岡県直方市



《完成して一言》

もち吉様の従業員の保育施設を建設しました。

地域の認可保育所ではカバーしきれない、遅い時間迄の延長保育や、夜間・日祝の保育等、多様な就労形態等、柔軟な保育サービスが可能で、安心して働ける職場環境をつくり、雇用の安定を図ります。

内装は木を基調として、小さな子供が安心して過ごせる空間に仕上がりました。子供たちの元気な声が聞こえます。



【福岡支店 小林】

PQC発表大会（フェーズ2 現場部門）

平成29年5月25日、我が社の品質管理システムPQC（Paperless Quality Control）のフェーズ2（工事現場部門）の発表大会を開催しました。

今回は、平成29年4月までに完成した本支店の6現場が発表を行いました。

各現場ともに、お客様に品質の高い建物を提供し、ご満足頂く為に、安全管理、工程管理、原価管理について、それぞれの現場にそった工夫を凝らし、最適な施工管理を実施している状況がよくわかりました。審査結果、下記の2現場が優秀賞として選出され表彰しました。



☆優秀賞☆ （株）野島鉄鋼店熊本店災害復旧工事 ・ 不二貿易（株）本社ビル新築工事



熊本地震による、震災復旧工事という、わが社でもあまり体験したことがない特殊な現場だということで、まず、近隣の道路や擁壁等の災害状況の説明を行いました。また余震の続く中、営業しながら半壊建物を復旧する為、作業員の安全と建築主従業員の安全には特に気を使いました。

実際工事期間中に2回ほど大きな余震が発生しました。

発表では、緊急工事の為、設計、見積、請負、施工計画、協力業者発注、現場管理が、同時進行で進んだことと、建物のジャッキアップや鉄骨仕口の補強など、普段はない工事を行ったことを紹介させて頂きました。

初めてファイルメーカーを使っでの発表でしたので、うまく使いこなせないところがありましたが、高い評価をいただき、他の発表者に申し訳ない気持ちです。

震災復旧工事に、関心を寄せ、熱心に聞いていただき、いずれ来るかもしれない大災害の為の心得の一つとして、記録に残れば、未来への備えになるのではと思います。

今回、私にとって初めての震災復旧工事で不安もありましたが、福岡支店各部門のサポートと協力会社や、震災当事者である野島鉄鋼店の従業員の皆様にもご協力いただき、無事故で竣工できたのに感謝します。熊本ではまだまだ復旧なかばですが、これからも何かの形でお役に立てればと思っております。

今後、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

【福岡支店 秋吉】



新入社員自衛隊体験入隊研修

当社の新入社員4名は新人研修の一環として、今年も4月4日から3日間、小倉南区の陸上自衛隊小倉駐屯地隊内生活体験に参加しました。おもに集団行動での基本的な動作(号令での整列、行進)や体力測定、登山、生活規律(時間厳守の徹底)などを体験しました。



【建設部 荒牧健太】

基本教練では、精神的な姿勢を集団行動で学びました。ひと班12人が一致団結し、最終日の総合訓練にむけて行進などの反復練習に励みました。この体験は時間の管理や全員で目標に向かって努力し、達成することの喜びを教えてくださいました。また同期との仲も深めることが出来、仕事にも積極的にチャレンジして行きたいです。

この研修で学んだことは「団結力」で、ひとつ一つの動作を合わせる為には、班全員が団結しなければいけません。初日は周りとの動作が合わずバラバラでしたが、皆で協力し励まし合うことで、まとまった集団行動が出来る様になりました。会社に戻っても「チームワーク」が必要になりますので、それに向かって努力したいと思いました。



【建設部 原賢志郎】



【建設部 高橋翔吾】

この3日間で学んだことは協力することの大切さです。一人が出来ないとその分を周りのみんなが負担しないといけないので、常に責任感ある行動をしなければなりません。規律を守り、時間の厳守、仲間で声を掛け合うことや、皆で協力して物事に取り組む事の重要性を改めて感じました。

ここでの時間の使い方が、普段の生活とは違い、時間をこれほど有効に使えば多くの事が出来てしまい、これまで自分が時間をどれだけ無駄にしていたかが、よく分かりました。厳しい体験の中で同期だけでなく、他社の人と心を合わせて団体行動することの難しさ、楽しさを知り、当たり前のことを一生懸命やることの難しさが分かり、それを積み重ねることの大切さを改めて知ることが出来ました。



【福岡支店 千住昇太郎】

標語の部

- | | | | |
|------------|-------------------------|------|-------|
| 1 位 | 心にも しっかり締めよう 安全帯 | 購買部 | 佐々木和也 |
| 2 位 | ゼロ災は こまかに気遣い 強い意志 | 福岡支店 | 川上 剛 |
| 3 位 | 安全は 現場のみんなが 責任者 | 管理部 | 萬田 恵一 |
| | 気を抜くな 慣れた作業に 危険の芽 | 福岡支店 | 小林 正弘 |
| 佳作 | あせらずに 急ぐ時ほど まず確認 | 大阪支店 | 古賀 忠司 |
| | これくらい ゆるむ心に ひそむ事故 | 管理部 | 山口 夏実 |

ポスターの部



金賞 社長 高藤元太郎

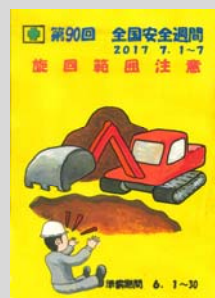


銀賞 大阪支店 高本美由紀

佳作



銅賞 建設部 江木一雄



銅賞 家族 江木加代子



大阪支店 森田将之



大阪支店 宮崎和一



大阪支店 秋永孝博



大阪支店 鶴原優

全国安全週間 作品

バッジの部

金賞



家族 座木忠良

入選



銀賞 事務センター 高良しおり



銅賞 大阪支店 鶴原 優



習字の部

中学校の部



天賞 家族 高藤啓太

一般の部



天賞 大阪支店 林 年数

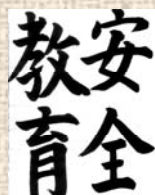


天賞 建設部 江木一雄



人賞 ADD室 加藤菜子

入選



家族 高藤春紀



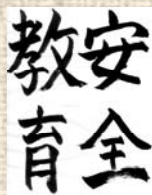
家族 洲希世香



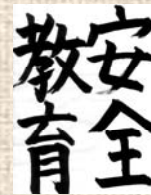
家族 高藤裕太



大阪支店 洲 秀次



家族 江木翔子



家族 江木結子



家族 江木加代子

安全衛生協力会総会

6月9日(金)「下関グランドホテル」にて、平成29年度「高藤建設安全衛生協力会第49回定時総会」を開催しました。会員数51社、出席40社、委任状7社、規約第4章第13条2項過半数の出席をもって成立しました。

議案審議については次の通りです。

第1号議案	平成28年度事業報告
第2号議案	平成28年度決算報告 監査報告
第3号議案	平成29年度事業計画審議
第4号議案	平成29年度予算審議

原案通り、満場一致で可決されました。

【建設部 吉浦】



あれから40年

私は昭和44年3月に同期社員13名(男性10名、女性3名)で入社しました。昭和43年5月に旧本社から移転したため、現在の本社での入社式第一号です。 私達の新入社員研修は今までの諸先輩方と違い、陸上自衛隊に3泊4日の体験入隊で耐力や共同生活、深夜巡回、早朝登山等で心身を鍛われました。研修最終日には前年6月に完成した当社厚生施設『別府藤友寮』で豊富に湧き出る温泉で体験入隊の疲れと、今後の社会生活をしていく為、同期生とのコミュニケーションを図る事が出来ました。

寮は古参独身者(25歳以上)が入る旧本社の大里本町寮と、若手社員が入る松原工作所2階の松原寮がありました。

私達新入生の部屋は6帖くらいの広さに2段ベット3台の6人部屋、風呂は五右衛門風呂で社宅の方々と共同、食堂は本町寮にあり、毎朝歩いて朝食と昼の弁当をもらって現場へ、夜は本町寮で食事をし、たまに門司駅前界限で遊んで路面電車で帰るのが日課でした。

松原寮は私たちが最後で、翌年には本社横にRC造4階建ての独身寮が新築され、食堂も現本社地下にあったので、食事のための移動時間が無くなり、食後はいつもテレビを持っている先輩の部屋に集まって和気あいあいの寮生活を送っていました。

今まで、共同生活をしたことが無かった私にとって辛いこともありましたが、良き先輩方のおかげで楽しく過ごさせていただきました。

当時は、ほとんど鉄筋を現場加工していたため、現場員は盗難防止を兼ねて現場事務所2階を宿泊部屋にして家財道具(布団・衣装一式・トランジスターラジオ等)をもって、工事期間中泊まり込んでいました。

冬はダルマストーブに石炭や木材の切れ端を焚き暖をとり、夏は窓を開けて扇風機で蚊や虫を払いながら、毎晩深夜まで製図板に向かって施工図を描いたり、計算尺とそろばんを使ってコンクリートの数量を拾ったのを懐かしく思います。

今はパソコンで、CADや積算ソフトとずいぶん進化していますが、助手時代に先輩や上司から教わった施工図や積算の基本を、大事にして後輩に継承していきたいと思っています。

入社して48年間本社・下関・福岡・大阪・徳山とすべての事業所の現場に行かせていただき社員間はもちろんのこと、お客様・協力業者様との交流が出来、良い経験になりました。

今は、新婚時代過ぎた大阪支店で、同期で誕生月も同じ3人と一緒に、微力ではありますが恩返しできるように頑張っています。

【大阪支店 林】



けんちく耳より話

新春号では2016年に発生した熊本地震で大打撃を受けた熊本城の屋根瓦について説明しました。今号では石垣のメカニズムについて記述します。

(1) 石垣の崩壊のメカニズム

熊本城と言うと、石垣が大きな特徴です。同時代のお城と比べても熊本城ほど沢山の高い石垣を重ねて築いたお城は他にはありません。清正公が如何にすごいお城を作ろうとしたか、まさに石垣がよく象徴していると思います。

熊本城の代名詞ともいえる石垣。その石垣の3分の1、64ヶ所に今回の地震で被害が及んでいます。皆さんもテレビ等で見た角だけが、かろうじて残った石垣。その奇妙な様から「一本石垣」と言われています。なぜ、この様な謎めいた姿で残ったのか。建物を支える石垣の角の部分、よく見ると直方体の石が交互に組み合わさっています。「算木積み」と呼ばれる方法で、角の部分を強くすることが出来ます。細部に工夫を施した先人の知恵が、崩壊の拡大を何とか防いだのではと考えられています。もう一つ、先人が考えた石垣の耐震技術として「栗石(ぐりいし)」と呼ばれる小石の構造があります。沢山の小石とその小石の間に生まれる隙間が地震の揺れを吸収すると言われてきました。

この仕組みが応用されているのが鉄道の線路。枕木の下の小さな石の隙間が揺れや衝撃を吸収しているのです。では、なぜ地震に強いはずの石垣が崩れてしまったのか?小さな揺れのエネルギーは栗石が吸収できるのですが…。

ある強さを超えると、揺れを吸収していた栗石が摩擦を失い、たがが外れた様に暴れだします。そして、激流のように一気に沈下。その圧力を支え切れなくなった時、石垣が崩壊し、まるで水のように、石が外に飛び出した結果、Vの字となって崩れるメカニズムが実験で判明しました。石垣の構造というのは、全国どこのお城でも基本的には共通しています。日本には3万以上のお城があると言われています。熊本地震は、こうした城を管理している自治体に大きな波紋を広げています。

(2) 文化的価値か、安全の確保か

石垣の修復というのは、まさに文化財の修復ですから史実に基づいた伝統工法で直していくのは基本だともいえます。見学者が通る所で石垣が崩れれば大変な被害が出るわけですから、人命を守る観点から石垣の耐震強度を高めるため現代的な工法も検討しなければなりません。文化財の本質的な価値を毀損(きそん)しないことを考えながら、積極的に安全を確保することが大事ではないでしょうか? 全国で城の石垣をどうしていくかというのは非常に大きな課題です。しかし、再び大きな地震が来て、石垣が崩れて人命に関わるというのは避けなければいけないと思います。熊本城をきっかけに、全国の城跡の修復の在り方を見直すという転換点にきていると思います。熊本城周辺では、加藤清正公の時代に建てられた建造物も軒並み崩れました。つまりその時代から今まで、これほどまでに強い揺れに襲われたことがなかったことを意味します。

熊本城の修復には、技術的難しさや費用の面から考えて相当な時間を要するだろうとの見方が多いですが、これだけ立派なお城、時間がかかっても是正改修して熊本の、そして日本の宝として後世にも語り継ぎたいですね。

(参考文献:NHKクローズアップ現代/名城はなぜ崩れたか謎のメカニズムに迫る, Spotlight)



編集後記

2017年5月下旬、当社本社の耐震補強に伴う改修工事が一段落つき、乳白色のガラスグリットMPG(メタルポイントグラサード)の姿として新しいファサードが現れました。外壁のリニューアルを終え、外部足場を撤去するとバラが一輪咲いていました。わずかに緑がかった無機質なガラスに鮮やかなピンク色のバラは何となく人の心にやさしい気持ちを蘇らせてくれます。

発行

高藤建設株式会社 高藤 元太郎

北九州市門司区東新町1-1-30

TEL093-381-0461 FAX093-381-0543

<http://takafuji.co.jp>



高藤建設株式会社